

[学術大会講演録]

第18回学術大会スポンサードシンポジウム1「OTC医薬品分科会創設の意義と新たなOTCの開発・提供・普及促進に向けて」より

スイッチOTC医薬品の開発

Development of Switch OTC

川瀬 一郎 Ichiro KAWASE

日本OTC医薬品協会 OTC研究・学術活動PJ

エスエス製薬株式会社

要旨: 今般、医療資源の最適化の議論を踏まえ、セルフケアとセルフメディケーションの重要性が増しています。セルフメディケーションのツールであるOTC医薬品に関しては、注目は集めつつも、その利用拡大は顕著ではありません。要因として、OTC医薬品に対する生活者、医療者の理解が進んでいないこと、新しい治療領域をカバーするイノベーションが進んでいないことなどが考えられます。OTC医薬品のイノベーションの柱の一つが、スイッチOTC医薬品です。医療用医薬品を安全性・有効性に基づき評価し、OTCに転用することで、セルフメディケーションにおける新しい治療オプションを提供します。スイッチOTC医薬品は医療リソースの最適化、アクセスの向上などへの貢献も期待されています。一方で、スイッチOTC医薬品の開発には課題も多く、他国に比較してOTCへのスイッチが進んでいるとはいえない状態です。課題を丁寧に解決しながら、スイッチOTCを含むOTC医薬品を有効に活用し、いかにセルフケアを促進していくべきか、将来に向けて議論していきたいと思えます。

キーワード: OTC医薬品、一般用医薬品、スイッチOTC、セルフメディケーション、セルフケア

はじめに

新型コロナウイルスの感染拡大を経験し、我々は医療資源には限りがあることを強く意識するようになりました。一般の生活者においても強く認識され、セルフケア、セルフメディケーションの必要性がこれほど注目されたことはありませんでした。一方で、セルフメディケーションの重要な手段のひとつであるOTC医薬品に関していうと、大きく利用が拡大している様子は、今のところ顕著には観察されていません。

本稿では、OTC医薬品に関して現状の理解を深めていただき、どのようにして新しいOTC医薬品が世に出るのかをスイッチOTC医薬品の開発過程を中心に説明しつつ、今後、OTC医薬品をセルフメディケーションのツールとして有効に活用し、セル

フケアを促進するためにはどうしたらいいのか、議論を進める一助としたいと考えます。

OTC医薬品とは

第54回日本薬剤師会学術大会にて、OTC医薬品に関するシンポジウムで発表させていただく機会がございました¹⁾。その際、参加された先生方から「OTC医薬品に関して理解が深まった」とのコメントをいただき、うれしく思うとともに、まだまだ、OTC医薬品は理解されていない側面があることを痛感しました。

医療用医薬品のOTC医薬品への転用（スイッチOTC）の促進が議論されていますが、まず、OTC医薬品自体が現場の薬剤師の方々を含め、医療者にとってわかりにくいものになっていることが考えられます。スイッチOTCの開発の話の前にOTC医薬品とは何かを俯瞰し、OTC医薬品の成り立ちに関して私見を交えて述べさせていただきます。

OTC医薬品は伝統薬と、その後の医療の現場での使用に準じた医薬品の転用、特にEBMに基づいて

〒163-1488 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー

TEL: 03-6301-4511 携帯電話: 070-2158-3678

E-mail: ichiro.kawase@ssp.co.jp